

資料番号	0353-01-001-04	0353-01-001-06	0353-01-001-07
調査年月	2003/7/7	2003/7/7	2003/7/7
調査者	尾形 充彦	尾形 充彦	尾形 充彦
名称	ヴェール・ガース 木綿縮標本	ヴェール・ガース 木綿縮標本	ヴェール・ガース 木綿縮標本
糸 素材	木綿(表紙の名称に従った)	木綿(表紙の名称に従った)	木綿(裂帳の表紙に木綿縮とあることによる)
糸 タテ			
糸 又キ			
色 地色	白の地に赤(ピンク)と青(青磁色又は薄漂)の文様	地(平組織)	薄紫(所々に薄い茶褐色のシミの線があるがこれはシミ汚れ)
色 未詳			
色 タテ		草色がかった茶、金茶、濃い草色がかった茶の3色	
色 又キ		草色がかった茶、金茶、濃い草色がかった茶の3色	
加工技法 織技法	地は平組織。赤と青の糸は縫い取り式に織り入れてあり、組織は文様部の糸の浮いた浮織り。おそらく色緯は裂地一幅一杯に通っている。	地は平組織、色経は経4枚綾組織、色緯は緯3枚綾組織。色経・緯も縫い取りや浮織り風ではなく、地をきちんと組織している。	経:約18本/cm 緯20本/cm 緯0.1~0.25mm 緯0.2~0.7mm (糸の太さは上から見た糸幅)地組織は、平組織、文様部分は、浮き織り(3本、5本、7本と経糸の上を緯糸が浮いている)
加工技法 染技法	白糸と先染の二色の糸を用いている。	三種三色の糸を先染めしている。	おそらく後染めで単色に染めている
加工技法 その他	経:約34本/cm 幅0.15~0.3mm(バラつき多し)緯26~32本/cm 幅約0.2mm(バラつき少なく)。赤緯糸:約32本/cm 幅約0.3mm 緯約32本/cm 織りは、全体的に1000回さらにS・Z混在。	地組織の経・緯糸は強撚糸。濃い色緯は、ごく甘撚り、金茶の色経は甘撚りと見える。濃い色緯は、S撚り。他はS・Z混在。強撚の経の間に甘撚りの経を規則的に並べ、強撚の緯を織り入れ、縞柄の所にほぼ平糸の濃い色緯を綾組織に織り入れている。	繊維が横に並んで平たくなった糸を緯糸に用いている。そのツヤと輝きからもモメンなのか合纏なのか不明と思える。
文様	赤と青の帯状の線の交錯により作られた太細の帯の線	色違いの粗い縞	藤の花枝が垂れ下がっている様子
形状	細長い長方形	細長い長方形	正方形に近い四角形
用途	不明	不明	不明
特記事項	白・赤・青のいずれの糸も強糸。太さは赤と青が白糸の3~5倍である。	強撚の経:約27~8本・幅0.1~0.25mm 撚り1000~1500回/mか 甘撚の経:16~18本/cm 幅0.3~0.45mm 撚り500回/m 経度かごく甘撚の緯:18~20本/cm 幅0.5~0.7mm 撚り200回/mか 裂帳の左右方向が経糸方向	裂帳の上下方向が強撚(S撚、Z撚混在、1000回~2000回/mまでの)経糸。緯糸には、無撚りの平糸を使用。経糸の撚りは強く、糸が波状に揺れ動くように曲がっているが、緯糸の平らな面の摩擦力が大きく、縮裂のようにシボが出来たり、表面が歪んで凸凹にした感じにはなっていない。
調査所見	裂帳の上下方向が経糸方向。一見すると地は左図のように規則的に星型のシボを形成しているように見える箇所あり。これは経緯強撚糸の縮絹の特徴である。	地は縮絹特有の雰囲気はあるが、約5mmの間隔で、甘撚の経糸が、綾組織に入っているので、地組織も十分なシボが出るにいたっていない。平糸に近い緯は、波状うねって曲がっているが~~~となっており撚り糸の特長というより、糸が細い管に捲かれてもともとコイル状のクセのついた糸を用いたのではないかとさえ思われる。	
製作地			
製作年			
織名称			
法量 縦			
法量 横			
法量 織耳			
考備			

資料番号	0353-02-001-09	0353-02-001-12	0353-02-002-03	0353-02-002-06
調査年月	2003/7/7	2003/7/7	2003/7/7	2003/7/7
調査者	切畠 健	切畠 健	切畠 健	切畠 健
名称	ヴェール・ガース 木綿縮標本	ヴェール・ガース 木綿縮標本	ヴェール・ガース 木綿縮標本	ヴェール・ガース 木綿縮標本
糸 色	素材	木綿と絹(?)	木綿	木綿
	タテ		化織か光沢いちぢるしい	木綿
	ヌキ		化織か光沢いちぢるしい	木綿、紋:毛
加工 技法	地色	白茶		藤色、文一 赤・ミドリ
	タテ		黄と赤、黄は平糸赤は強撚糸、	藤色、
	ヌキ		黄と赤	藤色、赤・ミドリ
	織技法	平織地に織はタテヤスラに毛糸を用いて、ヌキ3越を浮かして、浮織りとする。地のヌキ・タテともに強撚糸でZZ,SS,ZZ,SSと繰り返し縮効果を現す	平組織 タテ・ヌキとタテ1.5cmおきにしま、ヌキ1.7~1.8cmおきに段	地一平組織 タテ(強撚)zz,ss,zz,ss文一タテ8越をウキ沈みしている
染技法				不明
	その他	変り織文様裂	格子文様裂	特に点と点との間でタテのよく露出しているところは、タテの強撚によるループさえ出来ている
文様	変わり織、縞一太目の毛糸	格子 格子はタテ、ヌキともに白、黒のゆるい諸撚り2本引きそろえ	段はイチゴ手と言うように、ふくらんだ点状の縞、変則的なモロヨリ糸	無文様 風合いの面白さを見せる
形状	台形裂	台形に切られている	不整形	長方形裂
用途	不明	不明	不明	不明
特記事項	全体にタテ・ヌキの密度が低くて、透け効果があつて縞の浮織が際立つ	織耳はタテ2本とり、9mm。透ける効果と格子の糸の面白さ、ヒラ・ヨリの重なる効果一織色の効果	地組織は平で段をイチゴ手にふくらせた点であらわす。平のヌキ16越にモロヨリ2(アカ)1(ミドリ)2(アカ)を互いの目に織り入れて段をつくる。タテ8本浮いて段を作る。化学染料特有の色彩をしめている	一見ビロードのように見えるほど輪奈糸のループが表面に浮いている特徴のある風合いである。地のタテ・ヌキは細くしかも密度は低く軽い裂地である。輪奈糸は金襷の金糸のように、地ヌキにのせている。
調査所見	地タテ・ヌキ糸には、太細とりどりが見られてその一見無造作感に魅力がある	密度は低くて、格子の地は透けていて格子の諸撚糸糸が効果的である	地タテ・ヌキは、細くあたかも絹のように見えるが、強撚にかもかわらず木綿特有のケバ立ちが見られる。又、段は木綿のように見えつつ羊毛であることが、簡単な実験で知られる	地味ながら、ルーペで見ると特色あって他調査員の意見などを聞く。
製作地				
製作年				
織名称				
法量	縦			
	横			
	織耳		たて2本どり9mm	
考備				